

略 歴	学 歴	職 歴	年 月	内 容
	昭和39年		3月	大阪市立大学理学部地学科卒業
	昭和41年		3月	大阪市立大学大学院理学研究科修士課程修了
	昭和48年		6月	理学博士（大阪市立大学）
	昭和41年		4月	大阪市立自然科学博物館 学芸員
	昭和44年		4月	高知大学文理学部助手
	昭和55年		4月	高知大学理学部教授（～平成6年4月）
	平成 6年		4月	神戸大学 大学教育研究センター教授・同大学大学院教授（～平成16年3月）
	平成16年		4月	神戸女子大学文学部教授 現在に至る
	平成19年		11月	神戸女子大学・神戸女子短期大学 学長就任
	平成23年		4月	神戸女子大学学長再任



学長の第一期の任期を終えられた感想と第二期の抱負をお聞かせください。

この度再選され、平成25年3月末まで大学の学長を務めることになりました。身に余る光栄で、職責を全うできるように最善を尽くす覚悟です。皆様には、これまで以上に力強いご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

学長一期目は、大学基準協会による認証評価と、行吉学園創立70周年の記念行事という二つの大きな事業に追われました。二期目の2年間は、既に学科でご検討いただいた「行吉学園将来構想タスクフォース」答申を活かしながら、将来計画に対する基本的な考え方や方向性をまとめ、今後に引き継げるようにしたいと考えています。

今日の大学に求められる改革の動きは、以前とは比べものにならないほど激しくなっています。それだけに、大学は常に大学を取り巻く情勢をできるだけ早くまた正確に把握して分析し、真に大学の発展に結びつく改革を推し進める必要があります。社会は大学全入時代を迎えた大学に、教育力の強化を進め教育の質を保証することを強く求めるとともに、大学に入ってくる学生には社会全体の将来を切り拓く中心的な役割を果たすことに強い期待感を抱くようになってきました。本学は、今年も志願者数を増やし収容定員を満たすことができました。教職員、学生にとって大きな励みとなることで、自負をもって教育や研究の質の向上に努め、学生一人ひとりの個性と可能性を活かす人材養成の責任を果たしていきたいと考えています。



波田学長は、現在、「理科教育法」「理科特別演習」「卒業論文」の授業をもっておられますが、何を学生に伝えたいと思って講義されていますか。

私は学長に就任後も、ゼミをもち、可能な限り授業を担当しています。それは、学長になっても常に学生に近い存在でありたいと願っているからです。私自身学生と接することが元々大好きなのですが、学生の資質や考え方の変化を把握しておくことは、大学運営上も重要であると考えているからです。今は、小学校の教員採用試験を受ける教育学科の学生の物理実験を担当していますが、中・高を通じて理科が嫌いになっている学生が多く、その人達に理科の楽しさ・醍醐味を伝え、理科に対する考え方を変えてもらうことに精力を注いでいます。



学生に対する想いをお聞かせください。



本学は開設以来伝統として、学生一人ひとりの可能性を大切にしながら、自立心・対話力・創造性を培う教育を展開していますが、明確な目的意識を持って入学してくる学生が多いので、大学生らしく目的の達成に向かって勉学に励む真面目で誠実な学生が多いことに好感を抱いています。

また、付属高校をもっていないため、地元もさることながら地方出身の学生が多く、入学した時点から皆仲が良く、有意義な大学生活を送ろうと協同する雰囲気ができているので、私はその様子を安心して暖かく見守っています。

さらに本学は、クラブ活動、学友会活動、スクールサポーター、ボランティア活動などにも力を入れていますので、学生はチームワークのすばらしさやリーダーシップの大切さを知り、活力溢れる大学生活を送れるように力を発揮してくれていることも魅力です。



神戸女子大学
学長 波田 重熙



ご自身の研究の紹介をお願いします。

学生時代に学術調査で海外に行った経験を活かし、研究者になって後は、それまでの西南日本の地質研究を海外に広げ、東南アジア、カナダ、ニュージーランドを中心にプレートが衝突して形成される変動帯の地球科学的研究を続けてきました。その過程で、ユネスコと国際地質科学連合による国際共同研究に関わることとなり、リーダーとして多数の国の科学者と複数のプロジェクトを推進してきました。現在も国際プロジェクトの国内委員会の代表として日本学術会議の連携会員を務め、パリのユネスコ本部で開催される理事会に毎年出席しています。ユネスコと関わってきたことから、昨年10月にユネスコが支援している世界ジオパークネットワーク入りを果たした「山陰海岸ジオパーク」の実現の火付け役も果たしました。最近の研究成果は、日本列島の一部を構成する特異な地帯が元々南中国の一部で、大規模な横ずれ運動で現在の位置に移動してきたという長年の私の主張を、若い人達が協力してくれて古地磁気のデータを使って証明した論文を国際学術雑誌 (Earth and Planetary Science Letters) に掲載したことです。



所属学会：日本地質学会、日本古生物学会、カナダ地質学会、マレーシア地質学会、ニュージーランド地質学会、タイ国地質学会
主な論文：「Gondwana Dispersion and Asian Accretion (Gondwana大陸の分裂とアジア大陸の形成)」、 「昭和二八年有田川水害」など
社会活動：日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会IGCP国内委員会委員長、兵庫県文化財保護審議会会長、兵庫県国土利用計画審議会特別委員会委員など



座右の銘、愛読書を教えてください。

私はずっと「努力」を座右の銘としてきました。趣味であるマラソンにも通じるのですが、何事も日常の積み重ね、目的を達成する道筋、全て努力が第一と決めています。
本を読むのは往復の車中ですが、「世界は分けてもわからない」、「生物と無生物のあいだ」などの著者である福岡 伸一さんの著作に魅せられています。



趣味を教えてください。

若い頃からクラシック音楽の愛好家で、真空管アンプ、レコードで今も鑑賞しています。チェロが主役となる協奏曲や室内楽が特に好きです。体を動かすことも好きで、以前はテニスに熱中していましたが、現在は走ることに集中しています。今年も学生さんとホルルマラソンを走るために、日頃のトレーニングを欠かさないよう努力しています。50歳から始めて9回目のフルマラソンになります。



神戸女子大学は社会貢献で高い評価を得ていますが、このたびの東日本大震災について本学としてどのような復興支援をお考えでしょうか。

16年前の阪神・淡路大震災で日本中いや世界中から復興支援を受けた神戸に位置する大学として、できる限りの支援をしていくことをいち早く表明しましたが、具体的には「大学コンソーシアムひょうご神戸」や「ボーアイ4大学連携」の一員として、本学の得意分野である食と健康・教育などの分野の英知を活かしながら、夏季休暇を中心に活動できるように備えなければならないと考えています。



略歴	学歴	職歴
	昭和48年 3月	神戸大学教育学部卒業
	平成 3年 3月	神戸大学大学院教育学研究科学校教育専攻教育過程論(修士課程)修了
	昭和56年 4月	神戸大学教育学部附属住吉中学校文部教官教諭
	平成 5年 4月	神戸大学発達科学部附属住吉中学校副校長
	平成11年 4月	神戸女子短期大学教授 現在に至る
	平成14年 4月	神戸女子短期大学副学長(～平成22年3月)
	平成23年 4月	神戸女子短期大学学長就任

神戸女子短期大学の学長に就任された感想と今後の抱負をお聞かせください。

平成23年4月1日付で、神戸女子短期大学学長に就任致しました。本学は昭和25年に設立された全国で最も古い歴史と伝統をもつ短期大学のひとつであり、昨年は行吉学園創立70周年、短期大学創立60周年の祝賀行事を行いました。本学の建学の精神と教育綱領を継承し、社会の変化や時代の流れに即応して一層の発展を図るために、微力ながら全力を尽くす所存であります。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

いま、我が国の大学・短期大学は厳しい競争的環境にあると言われていています。学長としては、何より入学した学生を幸福にする大学づくりを目指します。それは、学生が快適に生活できる環境を整え、学生の確かなキャリアアップを保障する短期大学です。学生のキャリアアップは、卒業時に希望に満ちた確かな進路が獲得できるかどうかによって評価されます。そのためには、専攻分野の専門知識と専門技術、そして豊かな教養に裏付けられた女性の品格が必要になります。このため本年度は学務組織を改め、これまでの教務部と学生部に加えて、新しくキャリア教育部を設けました。これら3部のトライアングルシステムによって、在学生の学業、学生生活、就職進学全般をサポートします。わたしたち教職員には、ポートアイランドキャンパスのアメニティ空間を整備すると共に、すべての学生のキャリアアップを可能にする授業力と対話力、そして学生支援力が求められると考えています。

現代の大学・短期大学は、学内の視野だけでなく、学外の視野つまり地域や社会貢献の役割もまた求められます。神戸女子短期大学が、学生が求める大学だけではなく、地域が求める大学、時代が求める大学として発展するためには、学長の経営的バランス感覚が問われると認識しています。

長瀬学長は、現在、「心理学」「教育心理学」「教育課程論」「総合生活演習」などの授業をもっておられますが、授業では学生に何を伝えたいと思って講義されていますか。



どんな科目の授業でも、学問をすることの面白さと学問に向かう時に求められる真摯さを伝えたいですね。人間は自分の知的向上を実感すると自己肯定感が得られ、生きることに前向きになれる。また心理や真実を探究する時には、真剣でしかも謙虚な態度が求められます。講義や学生との対話を通して、この2つを経験して欲しいと思っています。

毎週火曜3時限は、総合生活演習(ゼミ)を担当しています。演習テーマは「人間関係の心理学」で、学生がテキストを輪読しながら、各自の体験談を織り交ぜたディスカッション形式で展開します。毎時間、担当者の発表をもとにした、笑いと緊張感のある演習になっています。学生の「対話力」が確実に伸び、1年間の成長ぶりには目を見張るものがあります。学生の本音を聞いたり、今どきの学生事情を知ったりできる貴重な時間でもあります。

学生に対する想いをお聞かせください。

本学の学生は明るく素直で、授業もしやすく好感が持てます。そして授業や休み時間などに話していると、まだ気付いていない多くの潜在能力があると感じます。それをうまく引き出すのが私たちの教師力だと思っています。

ときどき研究室のある9Fフロアのソファで、学生がレポート作成や勉強、昼休みなどに友だちと談笑する姿が見られます。通りがかりに声をかけると、意外に話が弾むことがあります。学生との対話は、クドクド説教くさく言わないこと、明るい笑いにもっていくのがヒケツでしょうか。娘と話す感覚ですね。最近、ちょっとした会話でも個人情報保護の視点を忘れてはなりません。むずかしい時代になりました。





神戸女子短期大学
学長 長瀬 莊一

Q ご自身の研究の紹介をお願いします。

専門分野は教育心理学です。この学問は領域が広くて、発達、教授・学習、人格、測定・評価、思考・認知などから成っています。私の研究は、教授・学習と測定・評価が中心です。小・中学校の教育課程、授業構成、教育評価に関するものが多く、近刊では若い先生向けの図解シリーズ『伝統的な教育理論に学ぶ授業づくりの基礎』『分かる』が生まれる授業55の基礎技術』『子どもの言語力を育てる学級と授業』『落ちこぼし伸びこぼしのない授業プラン』(明治図書刊)が好評です。遊び心で入会している日本顔学会は、歯学、医学、美容、心理学、人類学、美術系などを含めた異色の学会です。だからこそ自分の専門を深める貴重な手掛かりが得られるのが、学問研究の面白いところです。



主な著書：『子どもが勉強したくなる授業の条件』『関心・意欲・態度(情意的領域)の絶対評価』『学校ミドルリーダー』など
所属学会：日本教育心理学会、日本教育技術学会、日本教育工学会、日本顔学会
社会活動：兵庫県立高等学校学力向上プロジェクト推進協議会委員長、神戸市教育振興基本計画点検・評価委員会座長など

Q 座右の銘、愛読書を教えてください。

座右の銘は幾つかありますが、まず『本立而道生』を挙げます。何事も根本が確立して道が拓ける、という意味です。これまでの人生でも、原点・根本に立ち返って進むべき一歩を見つけた経験が多くあります。学生の皆さんにも薦めたい座右の銘です。書物は、多分野を幅広く読みますから、とくに絞り込んだ愛読書というのはありません。

Q 趣味を教えてください。

趣味といえるような、立派なものはないですね。仕事以外で心を解放するという気楽な意味ならば、美学探訪を挙げます。絵画彫刻や陶芸、書道をはじめ、文章の中にも美学を感じることがあります。司馬 遼太郎作品に出てくる漢の美学にも関心があります。私たちの周りの人の生き方にも美学を感じることがありますから、美学は身近で面白い分野です。

Q 神戸女子短期大学の社会的役割と実行している社会貢献にはどのようなものがありますか。

大学・短期大学に求められる最大の社会的役割は、社会に貢献しうる優秀な卒業生を輩出することです。教員や学生が行う学外活動も大事ですが、使命としては二次的です。大学人はこれを間違えてはなりません。本学の教員や学生は、ポートアイランド地域をはじめ、多くの社会貢献活動をしています。ご退職なされた森下 敏子教授が阪神淡路大震災以降ずっと学生と共に活動されていた「V-net」(阪神間の栄養士・管理栄養士を目指す学生のネットワーク組織)はその典型で、現在も引き継がれています。このほか、男性のための料理教室、保育ボランティア、市民病院や神戸空港ボランティアなど多くの活動がなされています。

